

第18回アドバイザー・ボード会合の概要

「アドバイザー・ボード」の第18回会合の日時・出席者・概要等については、以下に示すとおりである。

日 時：2019（平成31）年3月28日（木）13時00分～15時00分

場 所：神戸大学六甲台本館3階大会議室

出席者：

アドバイザー・ボード委員（五十音順、敬称略）

蔭山 秀一、加護野 忠男、八木 一法、吉井 満隆

研究科教員

上林憲雄、藤原賢哉、原 拓志、鈴木竜太、梶原武久、三古展弘、音川和久、
栗木 契

最初に、藤原副研究科長から、学部の入学状況、育成する人材像及び教育プログラム（経営学特別学修プログラム、会計プロフェッショナル育成プログラム、KIBER/KIMERA プログラム）の概要説明があり、卒業生による評価の結果と就職先でのヒアリング結果の報告があった。次に、大学院博士課程の育成する人材像及び教育プログラム（GMAPS/SESAMI プログラム）について説明があった。大学院教育の実績（研究者養成の実績）については、researchmap で得られたデータをもとに全国での神戸大学の順位や秀でた点について報告があった。また、課題として、大学院の入学状況のデータで日本人の入学人数が減少していることを取り上げ、日本人学生に対し研究者の魅力を十分に伝える必要があることの説明があった。

次に、鈴木 MBA 教務委員から、大学基準協会において認証評価を受審し適合認証されたこと、医学研究科と連携した科目を開講したこと、日本ビジネススクールケース・コンペティションにおいて優勝及び特別賞を受賞したこと等、今年度の神戸大学 MBA について状況報告があった。また、現在の課題として入学志望者数が頭打ちの状態であること、カリキュラムの見直しの必要性があることについての説明があった。

次に、原評議員から、経営学研究科所属教員の研究実績、外部資金獲得状況、学界活動及び社会貢献活動内容の説明があった。

最後に、上林研究科長から、経営学研究科の直面する課題として、予算の制約、ポイント制導入によるヒトの制約、科学研究費助成事業の申請率の引き上げ、学生定員数の検討等の説明があった。さらに、重要な課題として「学術の精神」の衰退について問題提起があった。

これらの報告の後、経営学研究科が取り組んでいる内容に関してアドバイザー・ボード委員から、ニーズに合った MBA コースの新設、地域連携・地域貢献の重要性、関西経済界との連携強化、会計・監査業界のビジネスの国際化等多岐にわたるアドバイスやコメントがあり、出席者による活発な意見交換が行われた。